

総 説

口腔の健康状態および歯科保健サービスの受給状況と 歯科医療費や医療費との関連

竹内 研時¹⁾ 佐藤 遊洋²⁾ 須磨 紫乃¹⁾ 古田美智子¹⁾
 岡部 優花¹⁾ 田中 照彦¹⁾ 小坂 健²⁾ 山下 喜久¹⁾

概要：近年，歯科疾患を予防・管理し口腔の健康状態を良好に保つことが歯科疾患による経済的負担を減らすだけでなく，生活習慣病重症化予防等につながる事が報告されている。本研究は口腔の健康状況や歯科保健管理が歯科医療費および医療費にどのような影響を与え得るかについて，これまでの知見を総覧することを目的に，①口腔の健康状態と歯科医療費および医療費の関係の検討，および②歯科保健サービスの受給状況と歯科医療費および医療費の関係の検討，を行った。電子検索データベースとハンドサーチによる文献検索から32編が精読の対象となった。①に関しては，残存歯数が20歯以上の場合に歯科医療費は少なく，また残存歯数が多いほど医療費は少なくなる傾向を多くの文献が報告した。また，歯周病を中心とした歯科疾患の存在も歯科医療費および医療費の増加と関連するという報告が存在した。②に関しては，予防目的の歯科通院や歯科検診に代表される歯科保健活動への参加が歯科医療費および医療費の少なさと関連するという報告がみられた。本研究結果から，口腔の健康状態の中では特に残存歯数が，歯科保健サービスの中では特に予防目的の歯科医療機関の受診が，歯科医療費および医療費と関連することが示唆された。これより，歯の喪失の主たる要因となるう蝕や歯周病などの歯科疾患の予防を中心とした歯科医療機関への定期受診を若年期から継続させることは，歯科医療費だけでなく医療費全般を抑制できる可能性があると考えられる。

索引用語：歯科検診，残存歯数，う蝕，歯周病，口腔ケア

口腔衛生会誌 67：160-171, 2017

(受付：平成 29 年 3 月 27 日 / 受理：平成 29 年 6 月 12 日)

緒 言

歯科疾患の有病率は世界的にも非常に高く，2010年の歯科疾患治療費は全世界で2,980億ドルにも上り，これは総医療費の4.6%に匹敵する¹⁾。また，代表的な歯科疾患であるう蝕や歯周病および歯の喪失による市場生産性の損失は死亡原因の上位10疾患に含まれる下気道感染症に匹敵する¹⁾。このような背景から，歯科疾患がもたらす経済的負担は非常に大きいことがうかがえる。

歯科疾患を予防・管理し口腔の健康状態を良好に保つことは身体的な健康のみならず，精神的，社会的な健康にも寄与することが知られている²⁾。歯科疾患を予防するための基盤的行動として，健康日本21第2次では歯科検診の受診者の増加が推奨されている。特に定期的なブラッシング指導を伴う歯科検診受診は歯周組織の改善をもたらす³⁾，歯周病予防への貢献が期待されている。代表的な歯科疾患である歯周病は，糖尿病や循環器疾患

などの生活習慣病・非感染性疾患との関連が報告⁴⁻⁶⁾されており，歯科疾患を管理することは歯科医療費を軽減するだけでなく，医療費の軽減にも繋がる可能性がある。しかし，口腔の健康状況や歯科保健管理が歯科医療費および医療費にどのような影響を与え得るかについて，これまでの研究成果を総括した報告はほとんど存在しない。そこでわれわれは，①口腔の健康状態と歯科医療費および医療費の関係を検討すること，および②歯科保健サービスの受給状況と歯科医療費および医療費の関係を検討することを目的として，これらに関するこれまでの研究報告を収集して，本論文にその結果をまとめた。

方 法

文献検索には電子検索データベースのPubMedおよび医中誌Webを用いた(検索年月日，2016年12月7日)。データベースごとの検索式とキーワードはそれぞれ

¹⁾九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野

²⁾東北大学大学院歯学研究所国際歯科保健学分野